

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成26年10月16日(2014.10.16)

【公開番号】特開2014-158556(P2014-158556A)

【公開日】平成26年9月4日(2014.9.4)

【年通号数】公開・登録公報2014-047

【出願番号】特願2013-30242(P2013-30242)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月25日(2014.8.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、

回路基板を収納する第1部材及び第2部材からなる基板ケースと、

前記第1部材と前記第2部材とを封止状態とするために用いられる封印シールと、
を備え、

前記封印シールは、

該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに変化する溶剤
使用部を有し、

前記基板ケースに貼付されたときに前記回路基板において制御用マイクロコンピュータ
が実装される実装面と同方向を向く部分に前記溶剤使用部が配置されている
ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、遊技を行うことが可能な遊技機に関する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

そこで、この種の回路基板を、ベース体(第1部材)とカバータイプ(第2部材)とからなる基板ケースに収納するとともに、封印シールを貼付することにより開封された場合にはその痕跡が残るように封止状態とすることで、回路基板に不正行為が行われた可能性があることを容易に発見することができるようとしたものがある。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

前記課題を解決するために、本発明の請求項1に記載の遊技機は、

遊技を行うことが可能な遊技機（例えば、スロットマシン1／パチンコ遊技機1001）であって、

回路基板（例えば、遊技制御基板40／主基板1031）を収納する第1部材（例えば、ベース部材201／ベース部材1201）及び第2部材（例えば、カバー部材202／カバー部材1202）からなる基板ケース（例えば、基板ケース200／基板ケース1200）と、

前記第1部材と前記第2部材とを封止状態（例えば、基板ケースが開封されたらその痕跡が残るように閉鎖した第2封止状態）とするために用いられる封印シール（例えば、封印シール400／封印シール1400）と、

を備え、

前記封印シールは、

該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに変化する溶剤使用部（例えば、所定の剥離液と接触することにより該剥離液に溶解する特殊インクにて印刷形成された溶剤使用表示部450A～450D／溶剤使用表示部1450A～1450D）を有し、

前記基板ケースに貼付されたときに前記回路基板において制御用マイクロコンピュータ（例えば、メイン制御部41（CPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41d））が実装される実装面（例えば、実装面40a）と同方向を向く部分に前記溶剤使用部が配置されている（例えば、図15（A）に示すように、封印シール400は、基板ケース200に貼付されたときに実装面40aと同方向（上方）を向く部分である上部領域R1に溶剤使用表示部450Aが配置されている）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとした場合、該封印シールの溶剤使用部が変化することで、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとしたことがわかるようになるため、溶剤により剥離した封印シールを再度貼付するといった不正行為を抑制できるとともに、溶剤使用部及び制御用マイクロコンピュータの実装面の双方を一緒に視認することができることで、溶剤使用部及び制御用マイクロコンピュータに対する不正行為の確認作業を容易に行うことが可能となるため、作業負担を軽減できる。